

Robotics Report

新たな常識のはじまり

健康と長寿がテーマの大阪万博 ロボティクス産業の発展に期待

nikko am
fund academy



11月24日、2025年の国際博覧会(以下、万博)の開催地に、大阪が選出されました。大阪での開催は55年ぶり2回目となります。政府や大阪府、各シンクタンクなどによると、今回の開催による経済波及効果は1.9兆円から2.6兆円と試算されています。今回は、大阪万博とロボティクス産業の”つながり”を探ってみたいと思います。

■ 大阪万博がもたらす日本のロボティクス産業の転換

今回の大阪万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」に決定しましたが、開催地決定前に大阪府が公表した『2025日本万国博覧会』基本構想案では、「人類の健康・長寿への挑戦」という、より直接的な表現が使われていました。これは、少子高齢化や人口減少社会が到来した日本が、国際社会共通の課題である「健康」について、その解決策を広く世界に発信する、という考え方です。

この考え方は、大阪万博開催に向けて、ヘルスケアや医療関連産業が今以上に注目を集めることになりそうで、ことロボティクス分野においては、リハビリ・ロボットや自立支援・介護支援型ロボットなどのイノベーションへの期待が高まるとみられます。

なお、日本の専門家によれば、現在、このロボティクス分野で最も高い競争力を持つとされている国がスイスで、国策で周辺国から専門家を招請することで高度な技術開発を推進し、製品を欧州先進国に輸出するビジネスモデルを構築している、とのことです。



※写真はイメージです

アジアには、中国など少子高齢化問題が顕在化する国は少なくありません。仮に日本がロボティクス分野で新たなイノベーションを実現し、効率的に世界への情報発信ができる万博で国際的な信頼を得られれば、スイスのように、アジア市場でヘルスケアや医療関連のロボティクス産業の成長モデルを構築出来るかもしれません。

■ 大阪万博はAIやVR技術にとっても革新機会

大阪万博では、健康や医療分野をテーマに、AI(人工知能)やVR(仮想現実)などの最先端技術を駆使した展示やイベントなどが検討されており、日本の技術をアピールする絶好の機会になると期待されます。



AR(拡張現実)・MR(複合現実)技術を活用した「空(くう)と呼ぶ大広場のイメージ(大阪府webサイトより)

AI分野においては、従来であれば収集が難しい、観光客や訪日外国人を対象としたビッグデータを集めたり、通訳や案内などの自然言語処理システム、来場者の満足度向上や安全対策を目的とした画像認識・行動検知技術に基づく都市管理システムなど、各種サービスをテストする大きな機会になります。

VR分野においては、大阪万博のテーマに沿った、世界的に需要が高まりつつある遠隔医療やリハビリ向けのVRなど、新しいユースケース(活用事例)や製品をアピールするチャンスになりそうです。

大阪万博は、日本のテクノロジーの成長を後押しする壮大な「実験場」になると考えられ、いまは想像もできないイノベーションが誕生する可能性もありそうです。今回の開催が大きなターニングポイントとなり、次世代技術大国・日本の誕生に期待が膨らみます。

(当レポートは、株式会社ロボティアの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。)

■当資料は、日興アセットマネジメントがロボティクスに関する情報についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。